

三重大学教育学部 国際交流ニューズレター No. 32

International Programs Newsletter No. 32 三重大学教育学部国際交流委員会 2017（平成 29）年 12 月 5 日発行

オークランド大学 教育研修 2017

オークランド研修を通して

音楽教育コース 2年 石川紗菜・加藤みづほ・北村風音

第 7 回オークランド大学教育研修が 9/9-23 に実施されました。昨年度に引き続き、今年度も研修期間は 2 週間となりました。

研修に行きました。

その間、一般家庭にホームステイという形で滞在しました。私のホストファミリーは、両親と娘が 1 人、そして 1 匹の猫を飼っていました。ホストシスターは大学で日本語を勉強しているということで、とても上手に日本語を話してくれました。

ニュージーランドに到着し、初めてホストファミリーと会った日にスーパーに買い物に行った際、「私たちは日本の面白い文化や美味しい食べ物、優しい人々が大好きなんだ」とホストファミリーが言ってくれた時、自分が日本人に生まれてよかったと心から思いました。

また、私がニュージーランドについて疑問に思ったことを質問すると誇らしげに自分の国について語ってくれる場面が多くありました。そして、自分の国が大好きだとホストファミリーはよく言っていました。

私たちは 9 月 9 日から 9 月 23 日までの 2 週間、ニュージーランドの最も大きな都市であるオークランドに

たちがロビーに集まって歌っている姿が目入りました。日本では恥ずかしがりな学生が多く、あまりそのような光景は見られないため、自由に音楽を創作し、表現できる雰囲気の魅力を感じました。隣には音楽科専用の広い図書館があり、要らなくなった楽譜を頂くことが出来ました。その楽譜には英語の書きこみがあり、これから解読して練習したいと思います。



学生主体の演奏会：オペラのリハーサル風景

また、学生主体の演奏会を音楽棟のホールで開催しており、オペラのリハーサルを見せていただくことが出来ました。演奏会を開催するにあたって、学生が全ての準備をしており、その主体的な姿勢に刺激を受けました。そして、表現力豊かな演奏を聴き、音楽に対する意識がより高まりました。音楽コースに所属している私にとって、大変貴重な経験をさせていただいたと思います。



音楽棟で見つけた英語の書き込みのある楽譜

日本よりも外国の文化を羨ましく思ったり、日本が海外よりも遅れている、劣っているように感じるという話を周りから聞いたりすることがあります。しかし、海外の文化を愛することができるのは自国の文化を愛しているからこそなのではないかとオークランドでの 2 週間のホームステイを通して思いました。

オークランド研修では、幼稚園から大学まで 5 つの学校を訪問しました。その中でも特に印象に残っているのがオークランド大学の音楽棟を訪れたことです。建物に入ると、最初に学生



オールブラックスの試合観戦

ニュージーランドの国技であるラグビーの試合を観に行くことも出来ました。以前からニュージーランドへ行ったら、絶対

にオールブラックスの試合を生で観たいと思っていました。運のいいことに、オークランドでの滞在期間中に試合がありました。チケットは完売でしたが、ホストファザーの助けもあり、トレードで手に入れることができました。試合では、タックルが決まれば叫び、トライが決まればさらに叫び、会場が一体となり、ウェーブが永遠と巻き起こりました。何よりもオールブ

ラックスの強さに圧倒されました。ニュージーランドにとってラグビーは国の誇りであると感じました。

この2週間、毎日充実しており、全てが私たちにとって忘れることのできない大切なものです。ここで学んだ経験をこれからの学校生活に生かしていきたいと思います。

外国人教員短期招へいプログラム 2017

外国人教員短期招へいプログラムによる三重大学来学

重慶大学 准教授 陳愛華

外国人教員短期招へいプログラムにより9月19日から10月31日まで重慶大学(中国)より陳愛華先生をお招きしました。



教養教育「知財学」にゲスト講師として

中国重慶大学の陳愛華と申します。三重大学の外国人教員短期招へいプログラムにより9月19日に三重大学に来ました。日本では8年間の留学生活を送っていたため、到着してから間もなく生活に慣れてきました。三重大学には、ほぼ毎年訪問させていただいておりますが、三重大学の略称として「重大」を使うことがあるのに気づいたのは、先日、図書館の本を借りた時でした。重慶大学もよく「重大」と略していますので、海を渡り、同じく「重大」であることはきっと何らかの縁でつながるものだと思います。

このプログラムの一環として、『知財学』の授業に参加させていただき、そこで中国における知財の状況や、発想から話し合いへの展開について、講義する機会をいただきました。ゲスト講師でしたが、学生にはしっかりしたレポートを書いていただき、感想を聞かせていただきました。言葉が違うのですが、学生が興味を持つ点やフィードバックを比較したら、日本の学生も中国の学生も共通点がたくさんあることに気づきました。まさに、知識や情報が自由に流れる新しい時代において、国の境があるとしても、若者には一つ同様な世界であることを実感しました。

松岡守先生とは、平成24年度から25年度にかけて日本学

術振興会の二国間交流事業共同研究で知財教育についての共同研究を行っていました。今回日本に滞在する間に、日本知財学会第40回知財教育研究会に参加し、中国大学発ベンチャー企業についての研究発表も行ったりと、第9回地域イノベーション国際ワークショップにも参加でき、韓国や台湾、中国から来たゲストとも交流ができました。今回の訪問を契機に、今後の知財教育での共同研究もさらなる進展を期待して頑張りたいと思います。

また三重大学にいる間に、松岡ゼミの学生や院生に歓迎会もしていただきました。皆さんは、研究室を借り、松岡先生のご自宅で作られた新米と栗で栗ご飯を炊いて、それからたこ焼きや水餃子も作り、楽しく美味しくいただきました。



[パーティーに向けてみんなで仕込み中]

43日間ですが、教育学部技術棟の研究室の窓から見る銀杏の葉っぱが徐々に黄色く染められ、夏から秋への季節の移りを感じながら、あっという間に過ぎてしまいました。この間に、松岡先生をはじめ、三重大学の先生方やゼミの皆さんから大いにご協力をいただき、そのおかげで、大変充実した有意義な訪問生活ができ、感謝の気持ちがいっぱいです。この貴重な思い出と「一期一会」を大切にしていきたいと思います。

国際交流委員会からのお願い：

国際交流委員会では教育学部の国際交流活動に関する記事を募集しています。国際学会や研修会の開催、外国人研究者の受け入れ、学生の海外留学等がありましたら国際交流委員会までご一報ください。「国際交流ニューズレター」に掲載させていただきます。